

教科・科目	理科・科学と人間生活	単位数	2（前期又は後期）		
		ライン	1	開講期	前期又は後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：科学と人間生活				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	（１）自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 （２）観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付ける。 （３）自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けるとともに、科学に対する興味・関心を高める。				
使用教科書 副教材等	改訂科学と人間生活（東京書籍） 科学と人間生活 学習書（NHK 出版） （放送視聴）NHK 高校講座「科学と人間生活」				

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けるとともに、科学に対する興味・関心を高めようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1編 生命の科学 第2編 物質の科学 第3編 光や熱の科学 第4編 宇宙や地球の科学 科学技術の発展	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第1編 生命の科学 第2編 物質の科学 第3編 光や熱の科学 第4編 宇宙や地球の科学 科学技術の発展	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	選択した時期（前期又は後期）に、8回以上出席すること。	
	放送視聴について	2回までスクーリング回数を免除することができる。（視聴2回で1回分） NHK 高校講座「科学と人間生活」第2・11回、第19・20回
	教科別質問教室について	2回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	選択した時期（前期又は後期）に、1回～6回のすべてに合格すること。	
試験	選択した時期（前期又は後期）に、1回合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録					添削担当者			先生			登録	
スクーリング 回数		学 習 内 容	レポート					スクーリング実施日				メディア 利用(NHK 高校講座)
			回	提出日・合格				日 S	月 S	火 S	木 S	
前期	①	第1編 生命の科学 微生物とその利用	前 1	1		2		4/19	4/20	—	4/16	第 2/3 回
	3			4								
	②	第1編 生命の科学 ヒトの生命現象	前 2	1		2		5/10	5/11	—	5/7	第 4/ 5/6 回
	3			4								
	③	第2編 物質の科学 材料とその再利用 (金属の性質と区別)	前 3	1		2		5/24	5/25	—	5/21	第 8 回
	3			4								
	④	第2編 物質の科学 材料とその再利用 (プラスチックの性質と分類)	前 4	1		2		6/7	6/8	—	6/4	第 7/9 回
	3			4								
	⑤	第3編 光や熱の科学 光の性質とその利用	前 5	1		2		6/21	6/22	—	6/18	第 12/ 14 回
3		4										
⑥	第4編 宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害 (自然災害と防災)	前 6	1		2		7/5	7/6	—	7/2	第 19/ 20 回	
3			4									
⑦	科学技術の発展 ・エネルギーや情報技術の発展 ・持続可能な未来のために	—	合格した放送視聴の記録					7/19	7/13	—	7/16	第 1/ 16 回
⑧	S①～S⑦の復習等	—	教科別質問教室に出席した日					7/26	7/27	—	7/30	
試験	レポート前1～前6の内容		本 試 験		追 再 試		8/23	8/24	—	8/27		
後期	⑨	第1編 生命の科学 微生物とその利用	後 1	1		2		10/11	10/19	—	10/8	第 2/3 回
	3			4								
	⑩	第1編 生命の科学 ヒトの生命現象	後 2	1		2		10/25	10/26	—	10/22	第 4/ 5/6 回
	3			4								
	⑪	第2編 物質の科学 材料とその再利用 (金属の性質と区別)	後 3	1		2		11/8	11/9	—	11/12	第 8 回
	3			4								
	⑫	第2編 物質の科学 材料とその再利用 (プラスチックの性質と分類)	後 4	1		2		11/22	11/16	—	11/19	第 7/9 回
	3			4								
	⑬	第3編 光や熱の科学 光の性質とその利用	後 5	1		2		12/6	12/7	—	12/3	第 12/ 14 回
	3			4								
⑭	第4編 宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害 (自然災害と防災)	後 6	1		2		12/20	12/21	—	12/17	第 19/ 20 回	
3			4									
⑮	科学技術の発展 ・エネルギーや情報技術の発展 ・持続可能な未来のために	—	合格した放送視聴の記録					1/10	1/18	—	1/7	第 1/ 16 回
⑯	S⑨～S⑮の復習等	—	教科別質問教室に出席した日					1/24	1/25	—	1/21	
試験	レポート後1～後6の内容		本 試 験		追 再 試		2/7	2/8	—	2/4		

6 先生からのメッセージ

「科学と人間生活」は、日常生活と科学技術との関わりを理解し、科学的に考える力を育む科目です。生物・化学・物理・地学の内容を総合的・横断的に取り扱い、科学の意義や課題を考察します。実験や観察を通して科学的な見方を深め、ICTを活用して理解を広げ思考を整理し、主体的に学習や探究をしようとする姿勢を養います。

教科・科目	理科・物理基礎	単位数	2（前期又は後期）		
		ライン	3	開講期	前期又は後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：物理基礎				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付ける。 (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。				
使用教科書 副教材等	改訂新編物理基礎（東京書籍） 新編 物理基礎 学習書（NHK 出版） （放送視聴）NHK 高校講座「物理基礎」				

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1編 物体の運動とエネルギー 第2編 さまざまな物理現象とエネルギー	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第1編 物体の運動とエネルギー 第2編 さまざまな物理現象とエネルギー	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	選択した時期（前期又は後期）に、8回以上出席すること。	
	放送視聴について	2回までスクーリング回数を免除することができる。（視聴2回で1回分） NHK 高校講座「物理基礎」第23・37回、第39・40回
	教科別質問教室について	2回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	選択した時期（前期又は後期）に、1回～6回のすべてに合格すること。	
試験	選択した時期（前期又は後期）に、1回合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録			添削担当者				先生				登録	
スクーリング 回数		学 習 内 容	レポート					スクーリング実施日				メディア 利用(NHK 高校講座)
			回	提出日・合格			日 S	月 S	火 S	木 S		
前期	①	1 編 物体の運動とエネルギー 直線運動の世界	前 1	1		2		4/19	—	4/21	4/23	第 1-6 回
	3			4								
	②	1 編 物体の運動とエネルギー 力と運動の法則	前 2	1		2		5/10	—	5/12	5/14	第 7-15 回
	3			4								
	③	1 編 物体の運動とエネルギー 力学的エネルギー	前 3	1		2		5/24	—	5/26	5/28	第 16-19 回
	3			4								
	④	2 編 ささまざまな物理現象と エネルギー 熱	前 4	1		2		6/7	—	6/9	6/11	第 20-23 回
	3			4								
	⑤	2 編 ささまざまな物理現象と エネルギー 波	前 5	1		2		6/21	—	6/23	6/25	第 24-29 回
3		4										
⑥	2 編 ささまざまな物理現象と エネルギー 電気	前 6	1		2		7/5	—	7/7	7/9	第 30-36 回	
3			4									
⑦	2 編 ささまざまな物理現象と エネルギー エネルギーとその利用	—	合格した放送視聴の記録				7/19	—	7/21	7/23	第 37-40 回	
⑧	S①～S⑦の復習等	—	教科別質問教室に出席した日				7/26	—	7/28	7/30		
試験	レポート前 1～前 6 の内容		本 試験		追 再 試		8/23	—	8/25	8/27		
後期	⑨	1 編 物体の運動とエネルギー 直線運動の世界	後 1	1		2		10/11	—	10/13	10/15	第 1-6 回
	3			4								
	⑩	1 編 物体の運動とエネルギー 力と運動の法則	後 2	1		2		10/25	—	10/27	10/29	第 7-15 回
	3			4								
	⑪	1 編 物体の運動とエネルギー 力学的エネルギー	後 3	1		2		11/8	—	11/10	11/5	第 16-19 回
	3			4								
	⑫	2 編 ささまざまな物理現象と エネルギー 熱	後 4	1		2		11/22	—	11/24	11/26	第 20-23 回
	3			4								
	⑬	2 編 ささまざまな物理現象と エネルギー 波	後 5	1		2		12/6	—	12/8	12/10	第 24-29 回
	3			4								
	⑭	2 編 ささまざまな物理現象と エネルギー 電気	後 6	1		2		12/20	—	12/22	12/24	第 30-36 回
3		4										
⑮	2 編 ささまざまな物理現象と エネルギー エネルギーとその利用	—	合格した放送視聴の記録				1/10	—	1/12	1/14	第 37-40 回	
⑯	S⑨～S⑮の復習等	—	教科別質問教室に出席した日				1/24	—	1/26	1/21		
試験	レポート後 1～後 6 の内容		本 試験		追 再 試		2/7	—	2/9	2/4		

6 先生からのメッセージ

物理基礎は、自然界の現象を物理の視点から探究し、科学的に考察する力を育む科目です。力・熱・波・電磁気などの基本概念を理解し、法則性を見いだすことで、自然を論理的に捉える態度を養います。実験や観察を通して現象のしくみを実感的に学び、数式よりも理解を重視した学び方や、ICT を活用して思考を整理する活動も取り入れています。

教科・科目	理科・化学基礎	単位数	2（前期又は後期）		
		ライン	2	開講期	前期又は後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：化学基礎				

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付ける。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。				
使用教科書 副教材等	改訂 新編化学基礎（東京書籍） 新編 化学基礎 学習書（NHK 出版） (放送視聴)NHK 高校講座「化学基礎」				

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解しており、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 編 物質の構成 2 編 物質の変化	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	1 編 物質の構成 2 編 物質の変化	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	選択した時期（前期又は後期）に、8 回以上出席すること。	
	放送視聴について	2 回までスクーリング回数を免除することができる。（視聴 2 回で 1 回分） NHK 高校講座「化学基礎」第 15・16 回、第 39・40 回
	教科別質問教室について	2 回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	選択した時期（前期又は後期）に、1 回～6 回のすべてに合格すること。	
試験	選択した時期（前期又は後期）に、1 回合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録				添削担当者				先生				登録	
スクーリング 回数		学 習 内 容	レポート						スクーリング実施日				メディア 利用(NHK 高校講座)
			回	提出日・合格				日 S	月 S	火 S	木 S		
前期	①	1 編 物質の構成 原子の構造と元素の周期表	前 1	1		2		4/19	—	4/21	4/16	第 6-9 回	
	3			4									
	②	1 編 物質の構成 化学結合	前 2	1		2		5/10	—	5/12	5/7	第 10-14 /17 回	
	3			4									
	③	2 編 物質の変化 物質質量と化学反応式	前 3	1		2		5/24	—	5/26	5/21	第 18-23 回	
	3			4									
	④	2 編 物質の変化 酸と塩基①（定義と分類）	前 4	1		2		6/7	—	6/9	6/4	第 25-28 回	
	3			4									
	⑤	2 編 物質の変化 酸と塩基②（中和反応）	前 5	1		2		6/21	—	6/23	6/18	第 29-32 回	
3		4											
⑥	2 編 物質の変化 酸化還元反応①（定義）	前 6	1		2		7/5	—	7/7	7/2	第 33-35 回		
3			4										
⑦	2 編 物質の変化 酸化還元反応②（金属）	—	合格した放送視聴の記録				7/19	—	7/21	7/16	第 36-38 回		
⑧	S①～S⑦の復習等	—	教科別質問教室に出席した日				7/26	—	7/28	7/30			
試験	レポート前 1～前 6 の内容		本 試 験		追 再 試		8/23	—	8/25	8/27			
後期	⑨	1 編 物質の構成 原子の構造と元素の周期表	後 1	1		2		10/11	—	10/13	10/8	第 6-9 回	
	3			4									
	⑩	1 編 物質の構成 化学結合	後 2	1		2		10/25	—	10/27	10/22	第 10-14 /17 回	
	3			4									
	⑪	2 編 物質の変化 物質質量と化学反応式	後 3	1		2		11/8	—	11/10	11/12	第 18-23 回	
	3			4									
	⑫	2 編 物質の変化 酸と塩基①（定義と分類）	後 4	1		2		11/22	—	11/24	11/19	第 25-28 回	
	3			4									
	⑬	2 編 物質の変化 酸と塩基②（中和反応）	後 5	1		2		12/6	—	12/8	12/3	第 29-32 回	
	3			4									
⑭	2 編 物質の変化 酸化還元反応①（定義）	後 6	1		2		12/20	—	12/22	12/17	第 33-35 回		
3			4										
⑮	2 編 物質の変化 酸化還元反応②（金属）	—	合格した放送視聴の記録				1/10	—	1/12	1/7	第 36-38 回		
⑯	S⑨～S⑮の復習等	—	教科別質問教室に出席した日				1/24	—	1/26	1/21			
試験	レポート後 1～後 6 の内容		本 試 験		追 再 試		2/7	—	2/9	2/4			

6 先生からのメッセージ

化学の基本的な知識を学習しながら、実験などを通し、日常生活と化学のつながりを意識した授業を展開していきます。物質やその変化に関する科学的な知識を得ることで、日常における科学的な現象についてより深く考察できるようになりましょう。また、必要に応じた ICT の活用によって主体的な学習をサポートしていきます。

教科・科目	理科・生物基礎	単位数	2（前期又は後期）		
		ライン	2	開講期	前期又は後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：生物基礎				

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付ける。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付ける。				
使用教科書 副教材等	改訂新編生物基礎（東京書籍） (放送視聴)NHK 高校講座「生物基礎」				

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 編 生物の特徴 2 編 遺伝子とそのはたらき 3 編 ヒトの体の調節 4 編 生物の多様性と生態系	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	1 編 生物の特徴 2 編 遺伝子とそのはたらき 3 編 ヒトの体の調節 4 編 生物の多様性と生態系	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	選択した時期（前期又は後期）に、8 回以上出席すること。	
	放送視聴について	2 回までスクーリング回数を免除することができる。（視聴 2 回で 1 回分） NHK 高校講座「生物基礎」第 6・11 回、第 26・33 回
	教科別質問教室について	2 回までスクーリング回数に含めることができる。
レポ ー ト	選択した時期（前期又は後期）に、1 回～6 回のすべてに合格すること。	
試 験	選択した時期（前期又は後期）に、1 回合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録			添削担当者				先生				登録	
スクーリング 回数		学 習 内 容	レポート				スクーリング実施日				メディア 利用(NHK 高校講座)	
			回	提出日・合格			日 S	月 S	火 S	木 S		
前期	①	1 編 生物の特徴 生物の多様性と共通性	前 1	1		2		4/19	—	4/21	4/16	第 1-4 回
	3			4								
	②	2 編 遺伝子とそのはたらき 遺伝情報と DNA	前 2	1		2		5/10	—	5/12	5/7	第 5-8 回
	3			4								
	③	2 編 遺伝子とそのはたらき 遺伝情報とタンパク質	前 3	1		2		5/24	—	5/26	5/21	第 9-11 回
	3			4								
	④	3 編 ヒトの体の調節 ヒトの体を調節するしくみ	前 4	1		2		6/7	—	6/9	6/4	第 12-16 回
	3			4								
	⑤	3 編 ヒトの体の調節 免疫のはたらき	前 5	1		2		6/21	—	6/23	6/18	第 17-22 回
3		4										
⑥	4 編 生物の多様性と生態系 植生と遷移 生態系と生物の多様性	前 6	1		2		7/5	—	7/7	7/2	第 23-27 回	
3			4									
⑦	結編 生物基礎と未来への行動	—	合格した放送視聴の記録				7/19	—	7/21	7/16	第 28-40 回	
⑧	S①～S⑦の復習等	—	教科別質問教室に出席した日				7/26	—	7/28	7/30		
試験	レポート前 1～前 6 の内容		本 試 験		追 再 試		8/23	—	8/25	8/27		
後期	⑨	1 編 生物の特徴 生物の多様性と共通性	後 1	1		2		10/11	—	10/13	10/8	第 1-4 回
	3			4								
	⑩	2 編 遺伝子とそのはたらき 遺伝情報と DNA	後 2	1		2		10/25	—	10/27	10/22	第 5-8 回
	3			4								
	⑪	2 編 遺伝子とそのはたらき 遺伝情報とタンパク質	後 3	1		2		11/8	—	11/10	11/12	第 9-11 回
	3			4								
	⑫	3 編 ヒトの体の調節 ヒトの体を調節するしくみ	後 4	1		2		11/22	—	11/24	11/19	第 12-16 回
	3			4								
	⑬	3 編 ヒトの体の調節 免疫のはたらき	後 5	1		2		12/6	—	12/8	12/3	第 17-22 回
	3			4								
⑭	4 編 生物の多様性と生態系 植生と遷移 生態系と生物の多様性	後 6	1		2		12/20	—	12/22	12/17	第 23-27 回	
3			4									
⑮	結編 生物基礎と未来への行動	—	合格した放送視聴の記録				1/10	—	1/12	1/7	第 28-40 回	
⑯	S⑨～S⑮の復習等	—	教科別質問教室に出席した日				1/24	—	1/26	1/21		
試験	レポート後 1～後 6 の内容		本 試 験		追 再 試		2/7	—	2/9	2/4		

6 先生からのメッセージ

単位を修得するための必要面接時間数（スクーリングへの出席時数）が8時間と多い科目なので、できるだけスクーリングに出席するよう努力してください。そうすることによって、レポートの提出もスムーズに行えると思います。

教科・科目	理科・地学基礎	単位数	2（前期又は後期）		
		ライン	3	開講期	前期又は後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：地学基礎				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付ける。 (3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を身に付ける。				
使用教科書 副教材等	改訂地学基礎（東京書籍） 地学基礎 学習書（NHK出版） （放送視聴）NHK 高校講座「地学基礎」				

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 編 私たちの大地	・ レポート	・ レポート	・ レポート
	2 編 私たちの空と海	・ 試験	・ 試験	・ 試験
	3 編 私たちの宇宙の誕生			
	4 編 私たちの地球の歴史			
	5 編 地球に生きる私たち			
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	1 編 私たちの大地	・ レポート	・ レポート	・ レポート
	2 編 私たちの空と海	・ 試験	・ 試験	・ 試験
	3 編 私たちの宇宙の誕生			
	4 編 私たちの地球の歴史			
	5 編 地球に生きる私たち			
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	選択した時期（前期又は後期）に、8 回以上出席すること。	
	放送視聴について	2 回までスクーリング回数を免除することができる。（視聴 2 回で 1 回分） NHK 高校講座「地学基礎」第 5・26 回、第 39・40 回
	教科別質問教室について	2 回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	選択した時期（前期又は後期）に、1 回～6 回のすべてに合格すること。	
試験	選択した時期（前期又は後期）に、1 回合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録			添削担当者				先生				登録	
スクーリング 回数		学 習 内 容	レポート				スクーリング実施日				メディア 利用(NHK 高校講座)	
			回	提出日・合格			日 S	月 S	火 S	木 S		
前期	①	1 編 私たちの大地 大地とその動き	前 1	1		2		4/19	—	4/21	4/23	第 1-4 回
	3			4								
	②	1 編 私たちの大地 地震、火山活動	前 2	1		2		5/10	—	5/12	5/14	第 6-10 回
	3			4								
	③	3 編 私たちの宇宙の誕生 宇宙の誕生、太陽系の誕生	前 3	1		2		5/24	—	5/26	5/28	第 17-24 回
	3			4								
	④	4 編 私たちの地球の歴史 化石・古生物の変遷と地球環境	前 4	1		2		6/7	—	6/9	6/11	第 26-29 回
	3			4								
	⑤	2 編 私たちの空と海 大気と海水の運動 等	前 5	1		2		6/21	—	6/23	6/25	第 30-32 回
3		4										
⑥	5 編 地球に生きる私たち 日本の自然の恵みと防災 等	前 6	1		2		7/5	—	7/7	7/9	第 11-16 回	
3			4									
⑦	終編 これからの地球環境	—	合格した放送視聴の記録				7/19	—	7/21	7/23	第 33-40 回	
⑧	S①～S⑦の復習等	—	教科別質問教室に出席した日				7/26	—	7/28	7/30		
試験	レポート前 1～前 6 の内容		本 試 験		追 再 試		8/23	—	8/25	8/27		
後期	⑨	1 編 私たちの大地 大地とその動き	後 1	1		2		10/11	—	10/13	10/15	第 1-4 回
	3			4								
	⑩	1 編 私たちの大地 地震、火山活動	後 2	1		2		10/25	—	10/27	10/29	第 6-10 回
	3			4								
	⑪	3 編 私たちの宇宙の誕生 宇宙の誕生、太陽系の誕生	後 3	1		2		11/8	—	11/10	11/5	第 17-24 回
	3			4								
	⑫	4 編 私たちの地球の歴史 化石・古生物の変遷と地球環境	後 4	1		2		11/22	—	11/24	11/26	第 26-29 回
	3			4								
	⑬	2 編 私たちの空と海 大気と海水の運動 等	後 5	1		2		12/6	—	12/8	12/10	第 30-32 回
3		4										
⑭	5 編 地球に生きる私たち 日本の自然の恵みと防災 等	後 6	1		2		12/20	—	12/22	12/24	第 11-16 回	
3			4									
⑮	終編 これからの地球環境	—	合格した放送視聴の記録				1/10	—	1/12	1/14	第 33-40 回	
⑯	S⑨～S⑮の復習等	—	教科別質問教室に出席した日				1/24	—	1/26	1/21		
試験	レポート後 1～後 6 の内容		本 試 験		追 再 試		2/7	—	2/9	2/4		

6 先生からのメッセージ

単位を修得するための必要面接時間数（スクーリングへの出席時数）が8時間と多い科目なので、できるだけスクーリングに出席するよう努力してください。そうすることによって、レポートの提出もスムーズに行えると思います。